



ところざわ

生きものにぎわい通信

第1回
(全3回)

発行 所沢市環境クリーン部みどり自然課
発行日 令和2年11月1日



「生きものにぎわい通信」は、所沢の自然・生きものや、自然を守る活動・ふれあう活動を全3回のシリーズで紹介します。

「生物多様性ところざわ戦略」ただいま検討中！



『生物多様性ところざわ戦略』は、「自然の恵み」を将来にわたって受けながら心豊かに暮らすことができる『善きふるさと所沢』を、多くの人や団体が協力をしながらつくるための計画で、現在検討中です(令和2年11月時点)。



暮らしを支える「自然の恵み」

多くの生きものから得られる「自然の恵み」は、私たちの命や暮らし、文化を支えています。



出典：環境省「こども環境白書 2012」

キーワード

生物多様性 (せいぶつたようせい)

生物多様性は、生きもの(動物・植物等)の豊かさにつながりのことで、「自然の恵み」の源です。

190以上の国や地域が「生物多様性条約」を締結して、「生物多様性」を守るための取り組みが、世界や日本で進められています。



所沢の自然と生きもの

「樹林」「草地」「水辺」などにさまざまな生きものが暮らしています。
市内の代表的な自然と生きものを紹介します。

砂川堀

砂川堀は狭山丘陵の池を水源として、富岡地区を通り、富士見市で新河岸川に合流します。上流部には土の岸辺があり、ミナメダカやモツゴ、ドジョウなどの魚類のほか、カルガモ、コガモ、カワセミなどの水辺の鳥や、ハグロトンボ、オニヤンマなどのトンボ類が生息しています。



ミナメダカ

水際に水生植物のある池や流れのゆるやかな水路などに生息します。生息環境が減り、希少になっています。



オニヤンマ

日本最大のトンボ。水のきれいな小川などに産卵し、成虫は川沿いを往復している姿を見ることができます。



砂川堀上流部

平地林と農地・草地

台地上には、大小の平地林があります。平地林は、江戸時代以降に肥料にするための落ち葉や、薪を採るために樹木が植えられ、定期的な伐採、下刈り、落ち葉はきなどで維持されてきたものです。平地林と周辺の農地・草地が一体となって生きものの生息場所になっています。



並木地区の畑と平地林

狭山丘陵

狭山丘陵は、丘陵地に広がる樹林と狭山湖が代表的な環境です。また、いくつもの谷戸（浅い谷）があり、そこには湧水や小さな池、湿地、水田が見られます。市内では、狭山丘陵でしか見ることのできない生きものも暮らしています。



狭山丘陵の谷戸



狭山丘陵



ホンダイタチ

水辺が主な生息環境で、魚や両生類、ザリガニ等を食べています。



カタクリ

早春に地上に現れ、春に花を咲かせて結実します。その後は、葉や茎は枯れ、春まで姿が見えなくなります。



オオムラサキ

紫色の羽が美しいチョウです。幼虫はエノキなどの葉を食べて育ち、成虫は樹液などを吸っています。



ヤマトタマムシ

虹色に輝く虫。成虫は食物となるエノキのそばで見られます。幼虫は枯れ木の中で育ちます。



まちなかの樹林や草地

平地林と農地・草地

狭山ヶ丘駅

砂川堀

狭山丘陵

狭山丘陵

狭山湖

柳瀬川

西武球場前駅

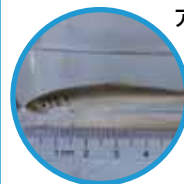
柳瀬川

柳瀬川は、狭山湖の堤防の下を起点として、市の南側を流れ、新河岸川、荒川を経て海に注ぎます。

上・中流部には瀬や淵、河畔林があり、ヤリタナゴ、ナマズなどが生息しています。生きものの上流の行き来を妨げる大きな段差がなくアユ、モクズガニなどが確認されています。



柳瀬川中流部



アユ

川の下流部で産卵し、稚魚は、河口の周辺で育ち、大きくなると、川を遡上します。



モクズガニ

甲幅7～8cmの大きなカニ。秋から冬に繁殖のために河口に下ります。食用にする地域もあります。

まちなかの樹林や草地

まちなかでも、樹林が残されていたり、公園や建物まわり、庭などに樹木や草が設けられていて、身近な場所でも生きものを見ることができます。



亀ヶ谷公園

ホンドキツネ

森や農地、草地などの広い範囲を使っています。食物となる動物が多い豊かな自然が必要です。

キウシュウノウサギ

樹林や農地、草地などに生息します。主に夜活動し、木の芽や葉っぱ、草などを食べます。

オオタカ

森の生態系の頂点に立つ鳥です。ハトやカモなどを捕食し、木の上に巣をつくります。

ヒバリ

さえずりながら空高く舞い上がる姿は春の風物詩です。麦畑や丈の低い草地などに巣をつくり、[市の鳥]。

キンラン

春に雑木林で黄色い花をつけるランの仲間です。持ち去りなどによって数が減っています。

シジュウカラ

白いほっぺに黒いネクタイのスズメ大の鳥です。一年中見られ、ツツピーなどいろいろな声で鳴きます。

コゲラ

日本で一番小さなキツツキです。林からコツコツと木をたたき音が聞こえたら探してみてください。

カブトムシ

夏にクヌギなどの樹液に集まります。幼虫は、落葉の堆肥などで育ちます。

アゲハ

幼虫は、ミカンの仲間の木の葉を食べます。まちなかの庭木でも見ることができます。

平地林と農地・草地



引き出しは代表的な場所を示しています。

東川

東川は、狭山丘陵を水源とし、市のほぼ中央を西から東に流れ、坂之下で柳瀬川に合流します。上流部を除き、大部分がコンクリートになっていますが、川底には砂利などが豊富にあり、モツゴ、ドジョウなどの魚が生息しています。ほかに、カルガモ、カワセミなどの鳥やハグロトンボなどのトンボ類が見られます。



東川下流部

柳瀬川沿いの斜面林

柳瀬川沿いの低地と台地の境は急な斜面になっていて、樹林が連続しています。この斜面林は樹林の生きものすみかや移動場所になっています。また、柳瀬川や滝の城址公園の池などの水辺が近くにあることからトンボ類なども見ることができます。



柳瀬地区

ツミ

日本最小のタカです。まちに近い樹林にも巣をつくり、まちなかで見かけることもあります。

アオゲラ

全長約 30 cm の緑色のキツツキです。木に巣穴を掘り、樹上や地上で昆虫などを食べます。

カワセミ

水辺の宝石と呼ばれる美しい鳥です。主に魚を食べ、土の崖に巣穴を掘りません。

ハグロトンボ

黒い羽根をもつカワトンボの仲間です。川辺にひらひらと飛ぶ姿を見ることができます。

探してみよう!

身近な生きもの

木の葉が落ち始める秋から冬の時期は、木々の間でくらす野鳥の姿がよく見えます。近所の公園や、庭にやってくる鳥たちを、見つけてみましょう。

ジョウビタキ 冬鳥

ヒッヒッ
カカツ



公園や庭の低い木にとまり、虫や木の実をついばんでいる姿がよく見られます。オスのおなかはオレンジ色・顔と翼は黒色で、翼の白い斑点が紋付き袴を着ているように見えるため、「紋付鳥」とも呼ばれます。尾羽を振って、お辞儀をするようなしぐさが可愛い渡り鳥です。

メジロ 留鳥

チーチー



ツバキやサザンカの木にやってきて、花の蜜を吸っている姿がよく見られます。熟した柿の実も好物です。黄緑色の体に、眼の周りの白い輪っか模様が目印です。物事が集中すること・大人数が混みあって並ぶことを意味する「目白押し」は、体を寄せ合って樹上に並んで眠るメジロの習性から生まれた言葉です。

オナガ 留鳥

ゲーイゲーイ



群れをつくって暮らしています。まちなかでもよく見られ、公園や庭木、電線やアンテナなどにとまっています。黒いベレー帽を被ったような頭に、翼と長い尾羽はきれいな水色をしています。実はカラスのなかまです。意外と大きく騒がしい声で鳴くのをみると、なるほど、と思うかもしれません。

クワッ クワッ ツグミ 冬鳥

(飛び立つとき)



カキなどの果実のついた木にとまったり、河原や畑、公園の芝生などの広々とした草地で、地面の虫を探して動き回っていたりする姿がよく見られます。足早に4、5歩歩いては、ピン!と胸を張って立ちどまる姿は、「だるまさんが転んだ」をしているように見えます。

冬鳥 晩秋から冬になると北から越冬にやってくる鳥

留鳥 季節による移動をしない鳥

行ってみよう! 所沢の自然スポット



『埼玉県狭山丘陵いきものふれあいの里センター』と『荒幡の富士』

「埼玉県狭山丘陵いきものふれあいの里センター」には、狭山丘陵の自然について展示があり、年間を通じてさまざまな自然体験プログラムが実施されています。隣には、明治時代に、地元の人たちがつくった人工の富士山「荒幡の富士」(所沢市指定民俗文化財)があります。頂上からは、都庁や東京スカイツリーや秩父の山を見渡せます。自然と歴史文化、展望を一度に楽しめる自然スポットにぜひお出かけください。



埼玉県狭山丘陵いきものふれあいの里センター (電話: 04-2939-9412)
西武狭山線「下山口」駅下車徒歩15分
駐車場あり(7台)